

# News Clip & AV Material

## ニュースクリップ&映像教材



鈴木日本教育メディア学会会長より第8回井内賞を授与される受賞者代表

### ■第8回日本視聴覚教育協会・井内賞授与される

視聴覚教育における若手研究者の優秀な論文を表彰する井内賞が、平成26年10月11・12日、金沢星稜大学において開催された日本教育メディア学会第22回年次大会において授与された(写真)。なお、受賞論文「ICTを活用した経験学習を促す学習環境の要件—日本語教員養成の事例から—」(岸磨貴子・大谷つかさ)(敬称略)は、本誌12月号で掲載の予定。

## AV情報

### ■ 青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム

内閣府では、青少年が安全に安心してインターネットを利用するため、保護者や教職員を対象に標記フォーラムを開催している。○秋田県 平成26年12月12日(金)秋田県庁第二庁舎(秋田県秋田市山王3-1-1)○横浜市 平成26年11月14日(金)横浜情報文化センター(横浜市中区日本大通11)○新潟県 平成26年12月5日(金)燕三条地場産業振興センター(新潟県三条市須頃1-17)○神戸市 平成26年11月28日(金)神戸クリスタルタワー(神戸市中央区東川崎町1-1-3)日程、会場等変更となる場合有。詳細は、下記を参照のこと。<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/koho/forum/h26/index.html>  
(問い合わせ先) 内閣府政策統括官(共生社会政策担当) 付青少年環境整備担当  
TEL 03-3581-9279(直通)

### ■ eラーニングアワード2014フォーラム

eラーニングを活用した人材教育、組織戦略の現状と未来を語り合う標記フォーラムが、eラー

ニングアワードフォーラム実行委員会他主催により開催される。

(日程) 平成26年11月12日(水)~14日(金)  
(会場) ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区神田駿河台4-6)  
(内容) 「eラーニングを取り巻く現状と未来」についての事例紹介、発表等。詳細は、下記を参照のこと。  
<http://www.elearningawards.jp/outline.html>  
(問い合わせ先) (一社)eラーニングアワードフォーラム運営事務局 MAIL [info@elearningawards.jp](mailto:info@elearningawards.jp)

### ■ 第34回「地方の時代」映像祭

大阪府吹田市、関西大学、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟の共同主催による標記映像祭が開催される。

(日程) 平成26年11月15日(土)~21日(金)  
(会場) 関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市山手町3-3-35)  
(内容) 贈賞式、記念講演、グランプリ作品上映、シンポジウム、ワークショップ等。詳細は、下記を参照のこと。<http://www.chihounojidai.jp/guide/>  
(問い合わせ先) 「地方の時代」映像祭実行委員会事務局 TEL 06-6363-3874

## トピックス

## 文部科学省共催「eスクール ステップアップ・キャンプ 2014」西日本大会の開催

(一財)日本視聴覚教育協会と日本視聴覚教具連合会が主催する「eスクール ステップアップ・キャンプ」西日本大会が来たる12月20日(土)(11:00開会～17:00閉会)に大阪梅田スカイビルタワーウェスト(大阪市北区大淀中1-1-88)にて開催される。プログラムの内容は以下の通り。  
 〈eスクール ステップアップ・キャンプ 2014 西日本大会〉

開会式／基調講演(文部科学省生涯学習政策局情報教育課)／文部科学省委託事業「ICTを活用した教育の推進に資する実証事業」  
 「ICTを活用した教育を推進するための校内研修リーダー養成研修」ワークショップ／模擬授業体験「1人1台のタブレットと電子黒板を活用した模擬授業」①【Windowsタブレット】広島市立藤の木小学校②【iPad】大阪市立本田小学校／デジタルポスターセッション(京都府亀岡市立南つつじヶ丘小学校、

大阪府箕面市立箕面小学校、兵庫県丹波市立新井小学校、兵庫県淡路市立一宮中学校、同志社中学校・高等学校、大阪府立視覚支援学校、兵庫県芦屋市教育委員会、兵庫県西宮市教育委員会)／パネルディスカッション「ICT活用研修の現状とこれから(仮)」(コーディネーター:園田学園女子大学教授堀田博史氏)／ICT教材・機材体験展示(終日)  
 ※プログラムの内容は、下記ホームページにて順次公開される。

〈対象〉全国の教育関係者(小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校等の教職員、教育委員会職員等)  
 〈参加費〉無料。配付資料に限りがあるため、定員になり次第、締切。

〈詳細・参加申し込み〉下記URL参照。

<http://www.javea.or.jp/ict/>

〈問い合わせ〉(一財)日本視聴覚教育協会

TEL 03-3591-2186

## ■ 2014年国際放送機器展 Inter BEE 2014

(一社)電子情報技術産業協会主催により、第50回目の標記展示会が開催される。

〈日時〉平成26年11月19日(水)～21日(金) 10:00～17:30、21日は、17:00まで。

〈会場〉幕張メッセ(千葉県美浜区中瀬2-1)

〈内容〉プロオーディオ、プロライティング、映像・放送関連機材、ICT/クロスメディアの4部門の展示。詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.inter-bee.com/ja/>

〈問い合わせ先〉(一社)日本エレクトロニクスショー協会 TEL 03-6212-5231

## ■ 2014学校図書館げんきフォーラム@東京学芸大学

東京学芸大学、活字文化推進会議主催により、「子どもたちの世界を広げる窓としての学校図書館」をテーマに標記フォーラムが開催される。

〈日時〉平成26年11月22日(土) 10:00～16:15

〈会場〉東京学芸大学(東京都小金井市貫井北町4-1-1)

〈内容〉セミナー、講演「タブレットは紙に勝てるのか」赤堀侃司氏(白鷗大学教授)、トークセッション、展示等。講演は事前申込必要。詳細は、下記を参照のこと。<https://dejidoku.u-gakugei.com/>  
 〈問い合わせ先〉東京学芸大学デジ読評価プロジ

ェクト TEL 042-329-7449

## ■ 第53回(平成26年度)下中科学研究助成先募集

(公財)下中記念財団は教育研究を助成するため、助成先の募集を行っている。

〈対象分野〉①自然(算数・数学、理科教育等11分野)、②人文(国語、道徳、特別支援教育等9分野)、③その他(教育一般、情報教育等5分野)

〈応募資格者〉全国小、中、高校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校の教員(教育センターを含む)を対象とし、研究は個人、共同を問わない。ただし応募は一人1点に限る。詳細は、下記を参照のこと。<http://www.shimonaka.or.jp/>

〈助成金額〉総額900万円(1件当り30万円を30件)

〈締切〉平成26年12月10日(水)消印有効。

〈問い合わせ先〉(公財)下中記念財団事務局

TEL 03-5261-5688

## 研究会情報

## ■ 大学ICT推進協議会2014年度年次大会

大学ICT推進協議会では、高等教育機関及び学術研究機関における情報通信技術を利用した教育、研究、経営等の高度化を図り、もって我が国の教

## ブックレビュー



### 「タブレットは紙に勝てるのか タブレット時代の教育」

赤堀侃司著  
ジャムハウス 発行  
2014年7月21日刊 四六判  
404頁  
本体1,650円＋税

紙とタブレット端末、どちらが効果的か。今、教育現場で議論になっていることがそのまま書名になっている本書は、ずばり、とても面白い。

第1章から第7章までで構成されており、各章には「まとめ」がある。この「まとめ」は一読者である私にはとてもありがたかった。「本章」を読んだあとにもう一度エキスを確認することができるからである。読み方によっては、「まとめ」を先に読んでから「本章」を読むという方法もよいだろう。

書名は単純明快だが、全7章397ページは、とてもボリュームがある。著者は「紙かタブレットか」を自己に問いかけながら自身のいくつかの研究知見を織り交ぜて、読者に教育的な活用について理解してほしいがためにボリューム溢れる一冊

になったものと推察する。それゆえ、各章に「まとめ」を入れて読み手に配慮したのではないかと思われる。なぜなら、紙のよさを十分に知り尽くした著者と言えるからである。その裏付けが以下のことから分かる。

著者はパソコンとタブレットを明確に分け、パソコンは人々の生活にしっかりと根付いたが、まだ紙に勝てなかった。タブレットは紙のように平板で、指先を使って注釈（アノテーション）を付けることができるので紙のような使い方ができる。しかし、どちらか一方が優れているというよりは、それぞれの特徴と役割があるので、実用的には使い分けたり併用したりするほうがよいと述べている。

紙幅の関係上、最後に、全章を読み終えて強く印象に残ったことを紹介する。

著者は、「紙かタブレットか」をテーマにしながらか、これまでの、今の、これからの教育方法について、教育に携わる私達読者に問いかけているようである。

紙もパソコンもタブレットも、ともにメディアである。教育（学習）で考えれば、それぞれのよさや役割を活かした使い方、すなわち、「ブレンド」あるいは「最適化」が重要であることを再認識した。

（金沢星稜大学教授 村井万寿夫）

育、学術研究、文化及び産業の発展に寄与するために標記大会を開催する。

〈日程〉平成26年12月10日（水）～12日（金）  
〈会場〉仙台市情報・産業プラザ、TKPガーデンシティ仙台（仙台市青葉区中央1-3-1）

〈対象〉高等教育及び学術研究機関で情報通信を利用した教育、研究、経営等に携わる教職員他。

〈内容〉情報教育、学術・教育コンテンツ共有流通などをテーマとした企画セッション、一般セッション、展示等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://axies.jp/ja/conf/2014>

〈問い合わせ先〉大学ICT推進協議会

TEL 092-642-7245

（公社）著作権情報センターでは、著作権の理解や尊重に役立つ「モデルとなる事例」や「優秀な事例」を広く教育関係者に紹介し、今後の著作権教育における活用のため、標記事例を募集している。

〈募集対象〉平成25年4月1日以降に実施した、著作権に関する教育活動の事例（テーマは自由、授業・特別活動等、形態は問わない）

〈応募資格〉募集対象となる教育活動を実施した小・中・高等学校等。詳細は、下記を参照のこと。  
<http://www.cric.or.jp/education/jissenrei10/index.html>

〈顕彰〉入賞事例には表彰楯及び賞品（希望する教育機材等）を贈呈。最優秀賞（1校）20万円相当、優秀賞（数校）10万円相当等。

〈締切〉平成26年11月30日（日）当日消印有効。  
〈問い合わせ先〉（公社）著作権情報センター-著作権教育実践事例事務局 TEL 03-5348-6030

## コンクール情報

### ■ 第10回著作権教育実践事例募集

## ■「第26回丹波篠山ビデオ大賞」作品募集

丹波篠山ビデオ大賞実行委員会、篠山市、篠山市教育委員会主催の標記コンクールでは、「生きる」をテーマにビデオ作品の募集を行っている。〈部門〉○グランプリ部門（7分以内）、○気軽にチャレンジ部門（2分以内）のテーマは「私の○○映像」。

〈応募条件〉アマチュアであること。DV・HDV・DVD・BDのメディアで応募のこと。応募の時点で他のコンクールに出品中でないこと等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://videotube.sasayama.jp/v-taishou/>

〈締切〉平成26年11月30日（日）必着。

〈賞〉ビデオ大賞（賞金20万円）、兵庫県知事賞（賞金3万円）、創造農村賞〔篠山市長賞〕（賞金3万円）他。

〈問い合わせ先〉篠山市視聴覚ライブラリー内「丹波篠山ビデオ大賞実行委員会事務局」

TEL 079-590-1301

## 学会情報

### ■ 第10回情報教育合同研究会

情報コミュニケーション学会では、「グローバルな視点から未来の情報教育を考える」をテーマに標記研究会を開催する。

〈日時〉平成26年11月22日（土）10:00～16:20

〈会場〉園田学園女子大学（兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1）

〈内容〉ワークショップ、研究発表、基調講演「教科『情報』と情報教育の未来像（仮）」永井克昇氏（文部科学省初等中等教育局情報教育視学官）、企業展示等。詳細は、下記を参照のこと。

<http://www.cis.gr.jp/conf.html>

〈問い合わせ先〉情報教育合同研究会 園田学園女子大学情報教育センター

TEL 06-6429-9909

## 文部科学省選定作品

■ 9月選定 紙しばい/ビデオ/DVD

特選「おじいさんとトラ」紙12枚（幼稚園、小学校低学年／幼児、教養）（株）童心社

「宮古島トライアスロン」D90分〈青年・成人、教養〉フィルムヴォイス（株）

「危険を予測・回避するポイント 命はひとつ！」

D40分〈青年・成人、地域社会生活（交通安全・防犯）〉有限会社斉藤プロダクション

「くらしにプラス！住宅用消火器」D16分〈少年・青年・成人、地域社会生活（災害予防・対策）〉（株）ビジョンプラス

「検証 巨大地震 ～活断層のメカニズム～」D20分、「深刻化する気象災害～どう身を守る？どう備える？～」D25分、「震災の教訓を活かせ～風化させない記憶と記録～」D25分〈成人、地域社会生活（災害予防・対策）〉（株）映学社

映像作品等選定一覧の詳細は、下記を参照のこと。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/movie/main9\\_a1.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/movie/main9_a1.htm)

## 短信

### ■ 文部科学省生涯学習政策局情報教育課の異動

平成26年10月1日付け

○情報教育企画係長 相川修二氏→研究振興局振興企画課学術企画室推進係長○高等教育局大学振興課大学入試室入試第一係主任 梶濱真氏→情報教育企画係長

## 寄贈図書資料

「高校生の科学等に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」101頁、(独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター、平成26年8月、A4判

「『調査研究シリーズ57』—英語科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究—」111頁、「『同58』—算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究—」114頁、「『同59』—国語科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究—」180頁、「『同60』—理科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究—」78頁、「『同シリーズ61』—社会科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究—」191頁、(公財)日本教材文化研究財団、平成26年9月30日、A4判

### 訃報

元日本学校視聴覚教育連盟会長の宮崎浩明氏が平成26年10月11日ご逝去された。享年74歳。